



平成23年 3月15日



まつかわ百景 ④9

「梅満開」 (古町)

山はまだ白く覆われ、吹抜ける風が頬を刺す初春。梅林の一角はすでに春真っ盛り。

2	3	4	5	6	7	8
面	面	面	面	面	面	面
公民館総括	まつかわ大学・男と女 いきいきフォーラム	みんなで仲良く 町の埋蔵文化財	まつかわ温故知新・情報	なかまたち・スポーツ	こどもたちの詩・俳句・短歌	視点・声・へんべん草

「疲労を感じるのには、どのような条件下においてなのか」という疑問をこのころ感じる。運動した後の疲れは睡眠により回復していくことは確かである。ところが、長時間テレビを観た後の異常な疲労感と回復の遅さには、閉口気味。最近は、午後9時以降の視聴は極力避けているのだが、魅力的な番組が結構この時間帯に組まれているのを見て、いろいろ考えさせられる。

最近の流行現象として、多くの企業が『わが社はこんな省エネ商品を製造している』だとか『エコ対策を採っている環境に優しい会社です』と宣伝しているのだが、その一方では省エネとは逆行していることを堂々と行っている。その最もたるものとして深夜テレビの放映が挙げられる。深夜放送には問題はあるだろうが、確実な需要(宣伝効果)も結構あると言

主張

疲労とは

うわけであろう。文部科学省が提唱している、「早寝早起き朝ごはん」は、あまりにも乱れてきている食生活や生活リズムを正そうとしているもので、これにより心身ともに健康な若者の育成を願っているものなのだが、この願いは弱い存在なのか。平成21年度最後のまつかわ大学の講師として招聘した、元NHKアナウンサー加賀美幸子という憧れの方との対応を終えた後の異常な疲労感には、少々びびった。が、翌日、神社の清掃活動をしたら、すっかり疲れは消えていた。

精神的なものからくる疲労と肉体的疲労とは異質なものがあるのではあろう。

結論は、快食・快眠・適度な運動。それを確保するには、適度な収入と仲間の存在であろう。

公民館長 塩澤三佳

春・夏・秋・冬公民館

平成22年度公民館総括

スポーツで

繋がる地域

体育部長 塚本 聡

本年度、体育部では昨年度に引き続きニュースポーツの普及に重点を置き活動して参りました。

昨年度同様にスポーツフェスティバルで「ワンバウンドふらばくるバレー」を行い、各地区公民館への普及を目的とし、夏季冬季の2回行いました。このスポーツを地区館のスポーツ交流会に選んで頂いた地区館もあり、少しずつ浸透し始めていることを実感できました。

また、8月に行われたファミリ―登山は、園児からご年配の方まで幅広く参加頂きました。天候にも恵まれ、陣馬形山頂では快晴の空の下、遠く辰野から阿智まで見渡せる絶景を楽しむことができました。共催して頂いた上片桐公民館の皆様も難うございました。



シャッフルボード (ニュースポーツ)

駅伝大会では多くのチームが参加し、町内一丸となり大会を盛り上げて頂き、大変有難うございました。沿道からの声援やチームメイトを応援する声に駅伝のすばらしさが伝わるよい大会になりました。

各方面より多くの方にご協力頂き、大会をスムーズに運営出来ました事を感謝いたします。今後とも変わらぬご支援をよろしくお願い致します。来年度も、子どもからお年寄りまで気軽に参加できるスポーツの普及に体育部一同努めて参りたいと思います。

1年間を

振り返って

社会部長 矢澤 恵樹

本館社会部では、「住みよい環境づくり」を活動方針に掲げ1年間取り組んでまいりました。

音楽祭では、初出場の松川中有志合唱団をはじめ町内各種団体のしなやかな歌声や迫力のある演奏で、忙しい日々の生活を忘れる事のできる一日でした。また、来場者も昨年同様、多勢の皆さんに参加していただき大きな盛り上がりを見せました。

映画会では、「オープンシーズン」の上演を行いました。家族の大切さや、環境問題など様々な方向から見る事のできる映画で、小さなお子さんから大人まで楽しめるストーリーで、楽しんでいただけたのではないかと思います。

人形劇場は、いい大人形劇フェスタ広域公演として、韓国の劇団「ザパリ研究所」の皆さんにお願いし、上演していただきました。躍動感あふれる人形の動き、表情豊かな人形に、時間がたつのを忘れさせてくれる作品でした。言葉の壁

を越えてよい国際交流ができたと思います。

あいさつ運動では、昨年同様に地区公民館、役場青年部の皆さんの協力をいただき行いました。町内各所、小中学校などで実施していますが、いまでは小中学校の子どもの方からあいさつしてくれる様になり、大変嬉しく思っています。今後より一層あいさつのできる町を目指したいと思います。

公民館研究会では、昔の写真展を同時開催し、今年度より3年間でこれからの公民館を考えていきたいと思ひ計画しています。町民の皆さんと一緒に今一度公民館というものを考えて「住みよい環境づくり」に結びつけていきたいと思ひます。

公民館活動は様々な立場の方々が集まる絶好の機会であり、住みよい環境づくりのきっかけとなれるように、今後とも充実した活動を行っていききたいと思ひます。

今後ともよろしく

お願いします

編集部長 三島真理子

今年度も、編集部では公民館で行われる行事や住民の皆さんの活動を取材してきました。取材へのご理解とご協力をいただきありがとうございます。

今年度はさまざまな「節目の

年でした。4月号で東小学校、12月号では松川高校の50周年を特集しました。また活動10周年を迎えた松川吹奏楽団、太鼓一芸人を取り上げました。7年ごとの御柱祭についてはカラー写真で特集することができました。

編集部員が実習する体験型の企画特集では「地産池消・まつかわ産」にこだわってみました。5月号では松川産材で「柏餅」を作り、郷土の自然の恵みを堪能。甘味の次は辛さも追求し、9月号では当時話題になっていた「食べるラー油」を手作りしました。

1月号ではまつかわのお正月の食卓をアンケート調査。伝統の食と最近の変化を探りました。

昨年度から継続してきたシリーズの「高齢者介護を考える」9月号では防災について取り上げ、1月号では楽しいイラストで介護サービスの受け方を解説してみました。

今年度の公民館研究会で「昔の生活から今を考える」まつかわまちの昔の写真特集のテーマで昔の写真を見ながら活発な話し合いがなされました。公民館報としても集会テーマと連動した企画で集会を盛り上げていきたいと考えています。

次年度も公民館報まつかわをよろしく願ひいたします。

上片桐 平成22年度を 振り返って

上片桐地区協議会
竹村敏典

平成22年度の上片桐地区公民館の事業を振り返ってみると、町民運動会が雨のため中止になったことを除けばほぼ予定された事業を実施することができました。

全体事業として『花いっぱい運動』、毎月第一月曜日に北小学校正門・昇降口前で行った『あいさつ運動(年9回)』『運営研究集会』、『告知板(年2回)』と『館報(年1回)』の発行の4つの事業を実施しました。

社会部事業として『絵手紙講座(毎月第2・4火曜日に開講)』、『フェスタぎおん』、『歴史めぐりく上片桐の山岳信仰霊場探訪』、『上片桐地区文化展』、『上片桐地区芸能祭』の5つの事業を実施しました。体育部事業として『夏季スポーツ大会(ワナゲ大会)』、『ファミリー登山(陣馬形山)』、『町の駅伝大会への協力』、『冬季スポーツ大会(綱引き大会)』の4つの事業を実施しました。2月13日(日)に開催した『運営研究集会』において出

された意見も、総じて、今年度事業を前向きに評価していただけた意見が大半でした。

上片桐地区の町民運動会については、日曜日の実施がありがたい、毎年実施することが次年度役員への引き継ぎの面でも大事なことだ、との意見が出されました。

その他出れた意見を次年度の事業に活かしてまいります。



ファミリー登山(陣馬形山)

次年度へ夢を託して

地区協議会総括

ご参加・ご協力
ありがとうございました
生田地区協議会
松下 聡

主事をお世話になり、4年間が過ぎました。生田地区協議会の年間行事は、10月の町民運動会と、2月の芸能文化祭の2つです。

今年度の町民運動会は雨天中止でしたが、今回は新しい試みとして『体育の日』の月曜日でなく前日の日曜日の開



生田地区協議会

催。お楽しみ抽選会。競技種目で、今までのマラソン大会の半分の距離を取り入れて、2コースでのマラソン大会。新しい種目でゲートボールの形態での『生田に花を咲かせましょう』と期待と不安をいっばいでしたが、

大島 今年度を 振り返って

大島地区協議会
市岡 智

大島地区協議会の社会部事業では、毎年公民館運営研究会を行なっています。

今年7月5日に中央公民館大広間にて開催されました。内容として、協議会事業計画、予算報告、各地区館の活動計画が協議され、そのあと『自転車に乗って』ユーラシア大陸横断サイクリングの旅という演題

で中川村に在住の島崎敏一氏に講演をしていただきました。

雨天中止という残念な結果に終わってしまいました。

芸能文化祭は天候に恵まれ、楽しいひとときを過ごすことができました。

町民運動会も芸能文化祭も生田地区民が参集する時なので、これからも大切に続けていってほしいと思います。

最後に4年間にいろんな方と出会い、いろんな事を経験する事ができました。ありがとうございました。

島崎氏は自分自身の体験を、子供達と共有し、育みたいという思いから、自然体験活動インストラクターをしていて、サイクリングや野遊び等をとうして、子供達と遊ぶのが楽しみという事でした。

体育部事業では、10月11日に町民運動会が開催されました。今年度は前々日までの雨で開催が心配されましたが、当日は晴天に恵まれ、大勢の町民の皆様にご参加いただき、ぎやかに開催する事ができました。中でもマラソン大会は去年の2倍以上の参加者で、大変盛況でした。

今年度は生田地区を参考に、プログラムの競技種目に目安として、開始時間を入れた所、わかりやすいと好評でした。

あと種目によって参加人数の開きがあり、競技内容も少しマナー化しており、今後の検討課題だと思いました。

最後に、運動会の準備・運営にあたり、それぞれのお立場でご協力いただきました皆様方へ心より御礼申し上げます。



運営研究会

まつかわ大学 第4講座

「可能性は無限大! 出会いには奇跡」

2月26日午後1時



宮本 延春 先生

「みなさんはオール1の通知票を見たことがありますか」

講師の宮本延春さんの問いかけに苦笑いする人頭をふる人、顔を見合わせて目をみはる人など…。私も特別勉強ができたわけではないけれど、1は無かったはず、でもアヒルの2は有ったかも。

「僕はそのオール1の通知票をもらったことがあるんです。本当ですよ」

爽やかな笑顔でサラッと云った宮本さんは、名古屋大学大学院を出られた後、母校の私立豊川高校で数学教師を務められた経歴の持ち主。まさかオール1なんて…。



宮本さんは、小・中学校でいじめられっ子だったため毎日目立たないように生活されたそう。そんな暮らしの中では「自分はダメ人間なんだ」という思いが強かったそうです。うちこめるもの、得意なものは誰もが持つていて、それを他者から認められることで「自分の得意なもの持てた」という自己肯定感を持つことができる。この自己肯定感によって、その人の可能性は無限大に広がるのだとお話してくださいました。

中学校卒業後すぐ働き始めた宮本さんの、変わるきっかけはアインシュタインのビデオ。24歳で豊川高校の定時制へ入学、27歳で名古屋大学へ入学、その後大学院へ。自分にあった学習方法でオール1の子が大学院まですすめたのですね。

宮本さんは子どもももっている可能性の大切さ、未来を変えるかもしれない出会いの大切さを軽快な語り口で笑いを交えながら伝えてくれました。

2月12日(土) 午後1時より中央公民館大会議室において男と女いきいきフォーラムが開催されました。



講師の内山二郎氏

今回はフリージャーナリストの内山二郎さんを講師にお迎えして「さだまさし『関白宣言』を分析しよう」と銘打ったワークショップを実施しました。

当日はあいにくの大雪でしたが、多くの参加者が集まりました。テレビでもおなじみの気さくな内山さんの語り口と、全員参加のレクリエーション



出た意見を分類して掲示

した時代。そんな時代背景が現れた歌でもあります。参加者はそれぞれの「あの頃」に思いを馳せているようでした。その後、附箋に書かれた意見を、正面におかれたボードに張ってある大きな紙に分類して張っていききました。同じ歌の中でも着目するところはそれぞれ。「俺より先

ワークショップ 共同作業で もっと仲良く! 男と女いきいきフォーラム

ンでは参加者の緊張もほぐれたところで、共同作業です。誰もが知っているフォークソング「関白宣言」の歌詞を見ながら各自が感じたことを大きな附箋に書いていきます。会場では「関白宣言」その後発表された「関白失脚」の歌が流されました。「高度経済成長」の時代とその後の停滞



名演技! 笑いとともを考える

に寝てはいけない」のくだりでは「寝ます」と断言する女性あり。「先に寝てもらったほうが気楽かも」と語る男性あり。普段中々聞けない双方の本音が聞けたのかもしれないですね。

その後はグループに分かれての作業を行いました。作業の成果として、模造紙にグループで出た意見をまとめ、寸劇仕立ての発表を行いました。突如の舞台に参加者の皆さんは恥ずかしがっていましたが、最後はノリノリでとても良い演技を見せてもらいました。

聴講者も終始参加で「おちおち居眠りなどしてられない」と非常に濃厚なフォーラムとなりました。

相手の気持ちと立場を考える

中央小5年 市瀬裕貴

買い物に行った時のこと... 買物に行ったら乗った人がいて... 周りの人はニヤニヤしたり、ジロジロと見たりしてしま...

でもできなくて困っている人を助けることが大切だ。」と考えるようになりました。

最近、差別をしたという事件など、よく耳にすることがあります。そんなことがない...



なかよし旬間をふり返って

中央小6年 宮澤唯人

なかよし旬間中に、人権講演会がありました。ぼくは、降幡和彦先生のお話を聞いて...

す。降幡先生の40年間で、も伝わってきました。5才の時、歩けるようになったのは、その強い心と努力があったから、だと思えます。友だちに悲しいことを言われたりしても、がんばって生活してきて、すごく尊敬します。自分には、とてもそんなに明るくできないと思えます。本心に心に残る忘れられないお話でした。...

松川町の文化財

(378) 埋蔵文化財(273)

北の城(6) 古来「大島城」と呼ばれた北の城

教育委員会 酒井幸則

文化財シリーズ... 北の城は地方旧記類には記録されてこなかった城ですが、大島氏関係の古くからの城跡であることは確かです。

「北の城」の呼び名は、現大島城を中心とした呼び名で、つまり大島城から見た呼び名で、「大島城の北にある城」の意と思われます。これは大島城が武田氏に摂取され、修築されてこの地の拠点となった後の呼び名で、それ以前は北の城とは呼ばなかったはずで...

武田氏摂取以前、「大島の館」あるいは「大島の城」は、おそらく大島氏の拠点、日常の住まいであった現北の城をこう呼んだはずです。つまり現大島城が武田氏によって今の形に造りかえられた結果、「大島の城」の名は移動したのです。

とすればそれ以前、大島領の最南端にあった砦のような小城(現大島城)が何と呼ばれていたかという点、旧記類にある如く「猿ヶ鼻城」であったものかもしれない。天竜川へ突き出した大地が猿の鼻に似ていることに由来するもの...

これは当時、地域の拠点の城を「大城」、即ち「だいじょう」、「おおじょう」と呼んだことに由来しているようです。「台地に城が造られたから」とすると、伊那谷の城はみな台城になってしまいますから、これはないということです。武田氏の拠点の大島城が知られるようになった結果、この城が大島氏の拠点であったと誤伝されるようになり、そこで「北の城」の名が生まれたのです。

古来、在地領主大島氏の拠点は現大島城ではなく、それは現北の城であり、武田氏伊那郡占領以前、現北の城は「大島の館」、あるいは「大島の城」と呼ばれていたことが想定されるのです。

1940年(昭和15年)頃 **71年後** **2011年(平成23年)3月**

木製の橋だった諏訪形橋 **現在の諏訪形橋**

車の交通量が少なかった
うっそうと繁る森
1人1台持ってる時代に…
車の交通量が増え、県外ナンバーもよくみるようになった

車自体少ない
木製の橋 三六災害以前で川幅はせまい
この時代… 自転車を持っている家は裕福
鉄骨の橋が増えている

問題点
・交通ルールを守らない車が増えている
・道の整備は進んでいるが、歩行者の危険度は高くなっている。

利点
・橋はより丈夫で安全になった
・移動手段や範囲が広がった
・通学路の歩道整備が進んできた

昔の道は狭かった
昔の方が運動会が盛んだった。飲むなど、地区の楽しみでもあった。
山の緑が豊かだった
うっとりゆく時代を見つめる えんまんぼう
荒れ山が多くなっている(里山の手入れができない)

道はどんどん広く

シリーズ昔の写真
まつかわ温故知新

昔を知ることで、現在が、未来が、見えてきます。前回の公民館研究集会では、昔の写真を見ながらまつかわの現在と未来を語り合いました。参加者から出た意見を紹介します。

1957年(昭和32年)福与区民運動会 **54年後** **2011年(平成23年)3月**

有りし日の学び舎… **現在は工場に…**

・自然環境を維持できなくなっている
・今の運動会は人手が少なく、種目もへっている。

問題点
運動会種目の工夫も必要かもしれない

別表

名称	規格	数量
長胴太鼓	1.6尺	3
長胴太鼓万能台	1.6尺用	3
長胴太鼓カバーケース	1.6尺用	3
締太鼓	三丁掛七寸胴	1
締太鼓用座奏台	木製	1
締太鼓用立奏台	木製	1
チャンチキ	4.5寸	1
撞木	中	1
舞扇	日本の歳時記	3
バチ	ひのき	5

松川町教育委員会では、(財)長野県市町村振興協会の助成により、平成22年度宝くじ助成備品として、長胴太鼓1・6尺3基をはじめとし、関連備品を、町民体育館へ設置することができました(別表)。少年少女太鼓クラブ等太鼓グループが、この太鼓を活用し、太鼓文化の継承や拡大、後継者育成、世代間交流を深めること、そして、コミュニティ活動がますます活性化されることを期待されます。

一般コミュニティ助成事業
太鼓文化の継承や拡大に期待

お問い合わせ
松川町中央公民館
電話 36-2622



なまなま

脈々とつながる農村女性の活動

農村女性ネットワークまつかわ

「男の料理教室」の講師としておなじみの農村女性ネットワークまつかわのみなさんが、平成22年12月21日に行われた「農村女性きらめきコンクール」の地域活動の部で優秀賞（長野県農業会議会長賞）をみごと受賞されました。

現在5グループ57人で活動されていますが、その歴史は古く、昭和30年代後半、生活改善グループとして発足しました。女性ならではの目線で、要望や活動を通じて、それぞれの時代

2月13日(日)上片桐公民館において、地区公民館・分館事業の反省及び相互の意見交換を行ない来年度の糧とするために公民館運営研究会が開かれました。

まず3つの分科会に分かれて意見

交換を行ない、その後の全体会にて発表が行なわれました。主な意見は次のとおり。

分館長・主事部会

●花いっぱい運動で植える植物をヒマワリや秋桜などの背

で活躍されてきました。長い活動の中で、受け継がれている3つの信条を伺いました。

- 1 役員の負担を軽減するため役割分担で係を決めてできるだけ多くの人が関わる。
- 2 地域の「きずな」を大切にす
- 3 先輩のやってきた活動の「つながり」を大切にす

この3つの信条の上に様々な活動が続けてこられました。今回の受賞をきっかけに、長い歴史の中で培われた信条や活

が高く目にとまりやすいものにできないか。
●現在北小の正門で行なっているあいさつ運動を各自自治会の辻などで行なえないか。

すぽと

来年度へむかって意見交換

上片桐地区公民館

運営研究会

社会部

- 歴史めぐりは地域を知れて有意義だった。できれば子どもも参加も呼びかけたい。
- ハイキングなどの要素を取り入れれば参加者も増やせる

動の重みを再確認されたそうです。

21世紀は、女性の世紀と言われている。まさにその先がけとして、地域に根ざし、女性ならではの視点から大きなうねりに変えていく、かけがえのないネットワークであるということをお話いただきました。



のではないかと。

体育部

●輪投げ大会では得点のつけ方を体育部員も理解しきれておらずうまく説明できなかった。事前準備をしっかりと。

●本館体育部でスポーツフェスティバルというニュースポーツの普及を目指した事業があるので、分館としても参加を呼びかけてみてはどうか。

これらの意見を土台としてより充実した活動が行われる事でしょう。

こころの詩

お兄ちゃんと
お姉ちゃん

北小2年 宮澤未有

わたしには
お兄ちゃんと
2人のお姉ちゃんが

います
いっしょにゲームの
通しんをしてくれたり
ホットケーキを
作ってくれたりします
お母さんがしごとで
おそいときには
お姉ちゃんたちが
ごはんを作ってくれます
やさしいお兄ちゃんと
2人のお姉ちゃん
わたしも大きくなったら
じょうずにおりょう理できる
お姉ちゃんに
なりたいです

モデルになったうちのうさぎ

北小2年 湯澤杏子

家でうさぎをかっていた。
学校からもらってきた。
うさぎはいっぱい食べるけど、
水はぜんぜん飲まない。
名前はピーター、まだ2才。
この名前にしたのには
理由が二つある。
一つ目は、男の子だったから。
二つ目は、うさぎのお話の
しゅん公ピーターラビットに
なっていたから。
かわいいから、
うちの年がじょうの
モデルになった。
毛の色はいい色。
ニックネームは
なーたん！

俳句

春隣

西澤清子（中荒町）

松過ぎて声なき厨に戻りけり
悠悠と時を紡ぎて冬かもめ
凍蝶は本堂飯の住処とす
髪切つて少し早足春隣

短歌

白き桜

新井住子（馬坂）

故郷の名木の桜この春も
変わりゆく世を見下して咲く
離れ住む母と桜を愛でし日よ
百歳に見るさくらは如何が
散りぎわの潔きよさのみ讃えられし
国の桜は野に山に咲く
五十余人の命奪いし崩落の谷に
咲きつぐ白き桜は
幼顔残る青年半被着て
火の用心をにこやかに説く

声

発見!! 未来の科学者達!! 上新井家庭教育講座

2月26日(土) 夜7時から
上新井地区公民館と子ども会
育成会共催による家庭教育講
座が開催されました。

今回は、飯田市から「おもしろサイ
エンスショー in 上新井」を
実施した84名の参加者達は
普段の暮らしでは目にするこ
との少ない科学の世界をわか
りやすく楽しみました。



こんなに大きくてきたよ!!

催しはサイエンスショー

「超電導リニアと超低温の不思議な世界」と
実習の「バルーン・スライムを作ろう!」
の2本立て。



今日から私も理系女子!



まちの石仏 ④ 「庚申塔」 町谷

上片桐にみられる石塔型の庚申塔



夢の最先端技術が目の前で!



参加した子ども達
が大人になる頃には
開通する予定のリニ
ア新幹線。今回の
ショーを通じて夢の
乗り物が少し身近に
感じられたかもしれ
ません。
バルーン・スライ
ム作りでは、参加者
も実験に参加。ふく
らませたスライムの
大きさを競いあうよ
うに楽しんでいまし
た。

2023年

3月に入り少しずつ暖かくなっ
てきましたが、この冬、この辺り
は昔のような大雪ということはあ
りませんでした。しかし、普段あま
り降らないと、時々雪が降って積
もった時には慣れていないせいも
あり困ってしまいます。

竹や木の枝が道へしななつてき
たり、道路は渋滞、歩行者はすべつ
たりと…

雪が降った時の市町村などの対
応は他の地域に住んでいる人に聞
いたりすると、それぞれ違うよう
です。雪が降った早くから塩カル
をまいてくれたり配布してくれる
ところもあるようです。

運転車は慎重に、歩行者もすべ
らないように気をつけるのはもち
ろんですが、公共機関で早い対応
をしてもらえると事故も少なくな
ると思うのでお願いしたいところ
です。

大雪が降らないのは危険が少な
くなりありがたいことですが、逆
に温暖化という自然破壊また、私
が子どもの頃には普通だった雪合
戦や雪だるま作りなどの雪遊びも
少なくなってきたかと思うと残念
で複雑な気持ちになります。

宮崎亜希子

公民館報
「まつかわ」
第 569 号
平成23年3月15日

発行所 松川町公民館
責任者 塩澤三佳
編集人 公民館編集部
Tel 36-2622
e-mail: ckouminkan@matsukawa-town.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)